

新実戦開手大会ルール

～顔面に防具着用、手刀・裏拳・鉄槌・肘打ちなどの手による顔面攻撃を認めた直接打撃！～

◎ **試合方式** = 顔面にスーパーセーフ面・Kプロテクター面（幼児～高校生）、顔面にヘッドギア、手に開手型グローブ（一般）を着用し、正確な手による顔面攻撃を認める事により上段に伝統技を生かせ、なお、反則個所以外に直接打撃し勝敗を競う個人戦トーナメント。

◎ **防具** = 上段に面…手に拳サポーター、脛足甲ガード、金カップ。
手に開手型グローブ…顔面にヘッドギア、脛足甲ガード、金カップ、マウスピース。

◎ **時間** = 幼児～中学生…1分30秒。 高校生・一般…2分。

◎ **勝敗** = 一本勝負。「一本勝ち又は技有り2つで合わせて一本」。

○ 上段への攻撃 …正確な手刀、裏拳、鉄槌、肘打ち、鉤突き、上げ突きなどは特に認める。
…正拳は強烈に当たったもの以外正確打として認めない。

○ 中・下段への攻撃 …相手にダメージを与えた場合。

★正確打とは（上段のみ）… 伝統技保持の為、当てた後正確な「引き」のある手技及び蹴り技をいう。

■ **一本勝ち** ○「相手にダウンを与えた場合又はそれに近い体勢を崩す程の技」。

■ **技有り** ○「一本技にはならないが正確打と見なされた技」(上段)。ダメージを与えた場合(中・下段)。
○相手の技を捌いて倒し、「寸止め」による極め技。
○瞬間的な引っ掛けと同時に出了正確打。
○「正確な相打ちは双方へ与える」。
○「相手の場外減点、反則減点により格上げになったもの」。
○正確な上段蹴り。

■ **判定** ○時間切れ同ポイントの場合、一方的な攻撃、相手の技を捌いての「寸止め」による極め、無防備な個所に入った正確な技など、又服装の乱れ、呼吸の乱れ一つでも考慮し、審判団は本戦決着の判定を出すものとする。
★最近、蹴り上げた足を引かずそのまま足先だけで2度・3度と蹴る選手がいますが、これは仮に相手にダメージを与えても技とは認めません。

■ **延長** ○原則として無し。ただし上記判定材料などを考慮してもなお甲乙つけがたい白熱した試合に限り審議の上、1分以内の延長を与える事もあるが、「差がついた」と判断された時点で「勝負あり、それまで」となる事もあり、1分になった時点で必ずどちらかの選手に旗を上げる事とする。
それでも引き分けの場合は体重判定とし、1gでも軽い方(又は、級・段の下の者)を勝ちとする。

■ **反則** ○後頭、喉、急所、頭突き。
○掴みながら、引っ掛けながらの攻撃。
○背後からの攻撃、又は相手の技を捌いての極め技でも正面からの攻撃と同等以上の攻撃。
(1回目で「減点1」となり、「相手に技有り」を与え、2回目で「失格負け」。初心者の選手に限り1回のみ警告。)

■ **場外** ○場外とは、直線的・一方的に出た場合。(双方攻撃中おもわずラインを踏んだ位では取らない)
(1回目で「注意1」、2回目で「減点1」となり、相手に「技有り」を与え、3回目で「失格負け」となる。)

■ **注意事項** ○反則、場外とも双方同時の行為は双方に注意・減点を与える。
○「注意1」を取られても、後半の攻撃によりそれを挽回することができる。

■ **主審・副2審制** ○主審50%、副審25%(1人)。2人の副審が同一選手に上げて主審は引き分けにすることが出来る。
○覆したい場合は時計を止め、副審と協議する。
○「見えない」表示の副審は判定の中に計算しない。

平成23年10月1日 改正